



【第140号 目次】

- 教育コラム「磨」
- 講座案内
- 特集 基礎講座Ⅱの報告
- 速報



磨

チーム協働研修

教職研修部 若年教員研修担当

高知県教育センターが実施する初任者研修の中で、特徴的なものに「チーム協働研修」があります。これは、初任者と中堅教諭との合同研修で、例年、県内4会場に分かれて夏季休業中に1日実施しています。受講者が非常に多く、教育センターの指導主事を総動員する大きな研修になります。

このチーム協働研修の特徴は、年次の異なる若手教員が合同研修を行い、その中で協働して学ぶという研修スタイルをとっていること、講師や指導主事に主導されるのではなく、中堅教諭がファシリテーターとなって研修を進めていき、主体的で能動的な学びを実現し同僚性を構築すること、そしてそれらを通して実践的指導力を高めていこうとすることです。したがって、このチーム協働研修では、中堅教諭が研修の「要」となります。中堅教諭のおよそ10年の経験や実践を研修の中で生かすとともに、中堅教諭自身も本県教育の中核を担う教員としての自信と実践力を高めていきます。組織あるいは、チームの一員として、同僚性を発揮できる教員に成長していただくことが、このチーム協働研修の大きなねらいともいえます。

研修を行う「チーム」は初任者3～5名と中堅教諭1～3名の合計4～7名で構成し、終日同じチームで研修を行います。初任者は模擬授業を行い、その後の研究協議の中で中堅教諭から経験を踏まえた助言や意見をもらいながら、授業改善の在り方について学んでいきます。中堅教諭自身にも、研修をマネジメントしていく中でミドルリーダーとしての役割やこれからの本県の教育を担う教員としての自覚をしっかりと再認識してもらおうとともに、自らの実践力を一層高めることにつながってもらいます。また、各チームは様々な教科のメンバーで構成しています。よい授業には、児童生徒にとって、共通した学び方や学習過程等の普遍的な要素が多くあります。本研修では異なる教科の教員が集うことにより、いつもの教科研修とは違った視点での気づきや学びを得てほしいとも考えています。

本年度は8月4日（木）に、教育センターの他、安芸高校、岡豊高校、大方高校の計4会場に約270名が参加して実施しました。初任者はひたむきに模擬授業を行い、研究協議での指導助言を自分のものにしており、中堅教諭の背中を懸命に追いかける初任者と、責任をもってチームをまとめようとする中堅教諭のどちらの姿も印象的でした。研修後の中堅教諭の表情からは、疲れは見られるものの充実した様子がうかがえ、研修前と比べると、随分頼もしくなったように感じられました。

初任者の研修の記録からは「中堅教諭からはすぐに実践に生かせる的確なアドバイスをいただき、他教科の初任者の魅力ある模擬授業からは大きな刺激を受けるなど、大変有意義な研修となった」、「他教科や年次の異なる先生方との研究協議では多くの気づきがあり、協働的に学ぶことの重要性が分かった。自校においても他の先生方と積極的に関わりながら実践的指導力の向上に努めていきたい」といった記述が見られました。中堅教諭からは初任者の模擬授業から多くの学びを得たとの声が聞かれ、協働性・同僚性を構築し、チームとして学校運営に関わることのできる教員を育成するという目的を達成できたと考えています。また、本年度も例年のように「自分も10年後に、今日指導していただいた中堅教諭のようになれるよう日々努力を重ねていきたい」という記述もありました。このように本研修は、初任者が10年後の自分の姿を具体的に考える機会にもなっており、研修効果は大きいと感じています。会場校のご協力と、中堅教諭の頑張りのおかげで充実した研修を実施することができました。ありがとうございました。チーム協働研修のバトンはしっかりと託されました。



10月22日（土）、高知県教育センターで、教科研究センター講座（基礎講座II）を開催しました。前半の講義では、「教材研究」と「板書の基礎・基本」を学びました。後半の演習では、講義で学んだことを生かし、グループで中学校道徳の板書計画を作成し、その後、意見交流を行いました。講義と演習の概要を報告します。

講義「教材研究と板書の基礎・基本」

講義1では、教材研究を、①素材の研究、②教材の研究、③指導方法の研究の三つの視点で捉えました。特に教材の研究では、指導目標と指導内容を把握することと、学習者である子供の姿を意識して、子供の教材の捉え方を予想しながら教材研究をすることが大切であることを確認しました。また、子供自身が「今日の学習で何が分かり、何ができて、何に気付けばよいのか」というゴールイメージをもって学習することができる「学習課題の設定の仕方」を、事例や簡単な演習を通して学びました。

講義2では、画面に映し出された板書例を参考にしながら板書の役割を学んだ後、目指したい板書の四つのポイント（①板書の基本ルールの共通理解、②子供の意見や考え方が残る板書、③子供参加型の板書、④見やすく分かりやすい板書）を確認しました。特に、「見やすく分かりやすい板書」では、点画を意識して正確に書くこと、色チョークの使い方に配慮すること、矢印や囲み、キーワードなどを使い構造化することなどの基本を学びました。



チョークの持ち方、書く姿勢、立ち位置のポイント

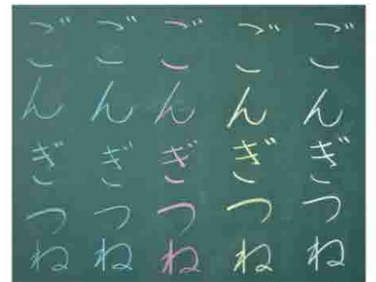
○チョークは、親指、人差し指、中指の3本で、チョークの先から1センチ程度のところをつまむようにして持つと、筆圧がかかり、文字が黒板に映えて見えやすくなります。

○板書をするときは、チョークを持った手の肘を軽く曲げ、頭の横上に伸ばして腕を自由に動かせる距離をとり、黒板の前に立つと書きやすくなります。

チョークの色使い

○遠くからでもよく見える白色のチョークを主に使います。黄色もよく目立ちますが、多すぎると見えづらくなります。

○赤や青、緑などの色チョークは、誰でも識別しやすいユニバーサルデザインのチョークを使って、見やすく分かりやすい板書にするようにしましょう。



演習「道徳科の板書計画」

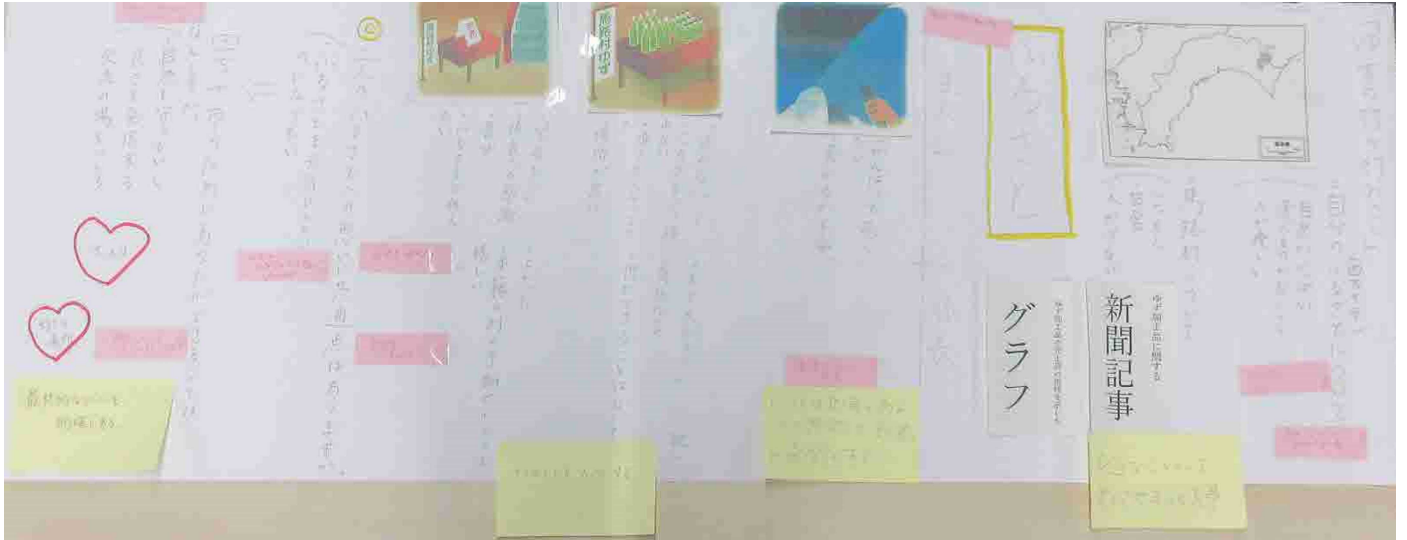
講義に続いて、道徳科の板書計画の演習を行いました。最初に、「道徳教育用指導資料集」（高知県教育委員会）に掲載されている板書例を用いて、板書のチェック項目の、①授業の流れが分かる板書である、②児童・生徒がゴールイメージをもてる学習課題である、③児童・生徒の考えが書かれている、④構造的な板書となっている、⑤学習課題とまとめが整合している等が板書に反映されていることを確認しました。

次に、中学校第2学年「ゆずの村の村おこし」（出典：道徳教育用郷土資料集「ふるさとの志」高知県教育委員会）の道徳科学習指導略案と配付資料を用いて、グループごとに板書計画を考えました。各グループとも異なる校種の教員と学生からなるグループ構成でしたが、熱心に協議しながら、黒板に見立てた模造紙に板書計画を作成していきました。

板書を作成する過程では、

- ・郷土について考える資料では、地域の基本情報を提供することで生徒の理解が深まるのではないかな。
- ・登場人物の気持ちを考えさせるだけでは国語になってしまう。登場人物はなぜこのような行動をしたのかを考えさせることが大切ではないかな。その行動に共通して流れている気持ちを考えさせることが必要ではないかな。
- ・主として集団や社会との関わりの内容項目では、学習の終末に自分の住んでいる地域社会について考えさせることが必要と聞いている。ここでも必要ではないかな。

等の協議がされ、それをもとに板書計画が考えられていました。



最後に、本日の講座での学びを班ごとに振り返り、それぞれ発表して相互交流をしました。

振り返りでは、

- ・教材研究の意味、その内容や留意点を知ることができ、改めて教材研究の大切さを認識しました。また、教材の前段階として素材研究があり、素材研究をすることは子供のためだけではなく、指導者自身にとってもより良い指導のために必要と分かりました。
- ・板書の役割は、学習内容を視覚化できる、児童・生徒同士の意見や考えを共有して協働的に学ぶことができる、板書をとおして学びを振り返り、学習の質を高めたり深めたりできることであると分かりました。板書の重要性を再認識しました。

演習の「道徳科の板書計画」の話し合いの中では、国語と道徳の違いについての視点で協議されていたり、どの場面で生徒に議論をさせるのかを考えたり、「主として集団や社会に関わる内容」では生徒自身と地域社会とどのように関わらせていくのかについての議論もされたりして、「特別の教科 道徳」についても理解が深まっていると感じました。

協働的にグループワークを行う中で、各個人から様々な意見が出され、他者の意見に耳を傾けることで考えが広がり、新たな発見や気づきがあったようでした。

《 引用・参考文献 》

- | | | |
|------------------------------------|---------|-----------|
| ・野口流 授業の作法 野口芳宏著 | | 学陽書房 |
| ・教育科学 社会科教育 2022年7月号 | | 明治図書出版 |
| ・高知県授業づくり Basic ガイドブック ー平成29年度改訂版ー | | 高知県教育委員会 |
| ・令和4年度 若年教員研修のしおり 子どもと生きる | | 高知県教育センター |
| ・中学校 道徳教育用郷土資料集「ふるさとの志」 | 平成24年3月 | 高知県教育委員会 |
| ・道徳教育用指導資料集 | 平成28年2月 | 高知県教育委員会 |



講座案内

あなたも教科研究センター講座に参加してみませんか？

令和4年度教科研究センター講座 基礎講座Ⅲ「特別支援教育の視点に立つ授業づくり」

- 1 期 日 12月10日(土) 10:00~12:30 (受付 9:45~10:00)
- 2 会 場 高知県教育センター 高知市大津乙181
- 3 対 象 高知県内の教職員及び教育職を志す人
- 4 内 容 「特別支援教育の視点に立つ授業づくり」

<Key Word>

「インクルーシブ教育システム」「ユニバーサルデザイン」「合理的配慮」

- 5 申 込 12月1日(木) 16:30 締切

令和4年度教科研究センター講座 基礎講座Ⅳ「授業づくりで大切にしたいことⅡ」

- 1 期 日 令和5年1月14日(土) 10:00~12:30 (受付 9:45~10:00)
- 2 会 場 高知県教育センター 高知市大津乙181
- 3 対 象 高知県内の教職員及び教育職を志す人
- 4 内 容 「授業づくりで大切にしたいことⅡ」

講義 「教師の話し方」「発問等の基礎・基本」

教師の話し方の基礎・基本と授業における発問や指示、説明等の役割について学びます。

演習 「発問づくり等の演習」「グループによる模擬授業」

授業のねらいに迫り子どもたちが学びたいような発問づくり等の演習をグループで行います。その後、作成した発問等をもとにして、グループで模擬授業を行います。

- 5 申 込 12月14日(水) 16:30 締切

冬季閉室のお知らせ

令和4年12月28日(水) ~ 令和5年1月4日(水)
上記期間中、教科研究センターは閉室します。



教具の貸出しについて

教科研究センターでは、アーテックロボ、コード・A・ピラー（本部のみ）やボッチャの貸出しを行っています。詳しくは、各教科研究センターにお問い合わせください。



速報



教科研究センター(本部・東部・中部・西部)

令和4年10月の利用者状況 **395名**

◆◆ご利用ありがとうございました◆◆



《 教育センターの四季：
秋の大収穫・芋掘り 》

教科研究センター（本部）	高知県教育センター2階（高知市大津乙181）	TEL/FAX 088-866-3903
東部教科研究センター	安芸総合庁舎4階（安芸市矢ノ丸1-4-36）	TEL/FAX 0887-34-8051
中部教科研究センター	中部教育事務所1階（吾川郡いの町枝川2410-7）	TEL/FAX 088-893-6597
西部教科研究センター	幡多総合庁舎3階（四万十市中村山手通19）	TEL/FAX 0880-35-6251

教科研究センターホームページアドレス <https://www.kochinet.ed.jp/studycenter>